

2023年度C&C賞表彰式典開催

2023年11月29日、ANAインターコンチネンタルホテル東京（東京都港区）にて、2023年度C&C賞表彰式典を執り行いました。式典会場（写真1）には78名が出席、そして、33名がオンライン視聴しました。

式典は午後3時から、新野理事長による開会の挨拶で始まりました。挨拶のなかで、財団の主要な活動が紹介され、C&C賞は1985年の表彰開始から今年で39回目を迎え、過去77グループ122名の受賞者を輩出し、後にノーベル賞を受賞した方もいることが報告されました。次に、徳田英幸審査委員長から、C&C賞選考経緯と受賞2グループの発表がありました。グループAの受賞者として、「超伝導量子ビットの実現と量子コンピュータをはじめとする量子情報技術分野への貢献」に対し、理化学研究所 量子コンピュータ研究センター センター長、東京大学 大学院工学研究科 物理工学専攻 教授 中村泰信博士と、東京理科大学 教授、理化学研究所 コンピュータ研究センター チームリーダー 蔡兆申教授、また、グループBの受賞者として、「For Major Contributions to the Development of the Python Programming Language and its Use as Open-source Software（プログラミング言語 Pythonの開発とオープン化への多大な貢献）」に対し、マイクロソフト ディスティンゲイッシュド エンジニア グイド ヴァンロッサム氏（Guido van Rossum）が選ばれ、それぞれの業績が紹介されました。続いて、C&C賞贈呈に移り、

新野理事長から受賞者に表彰状、賞牌と賞金目録が贈呈されました（写真2）。

次に、ご来賓から祝辞を賜りました。経済産業省商務情報政策局 審議官 西村秀隆様からは、受賞者の業績を称えるとともに、量子情報技術やプログラミング言語の技術は、デジタル社会の実現に不可欠なものであり、経済産業省としても受賞者が生み出した成果が幅広い産業の発展や国民生活の向上につながるよう取り組むとのことのお言葉がありました。電子情報通信学会会長 森川博之様のご祝辞では、できないと思っていた量子コンピュータが今では世界的に大きな動きになったこと、Pythonは仕組みやコミュニティの進め方が素晴らしく、思っていた以上に普及したなど、受賞対象となった成果についての思い出を語り、祝意を表して締めくくりました。

受賞記念講演会では、3人の受賞者にご講演いただきました。中村博士は、「超伝導量子ビットから量子コンピュータへ」と題して、研究内容について講演されました。1992年にNECの研究所に入り、蔡教授のチームで単一電子トランジスタの研究を始め、世界で初めて超伝導量子ビットを実現したときには量子コンピュータはスコープになかったが、電気回路上で量子ビットを実現した例として注目を集め、その後、量子コンピュータの研究につながったのは幸運だったと話しました。蔡教授は、研究の背景について講演しました。1984年にリチャード



写真1 C&C賞表彰式典



写真2 受賞者夫妻記念写真：グループA受賞者の中村博士夫妻、蔡教授夫妻、新野理事長、グループB受賞者のヴァンロッサム夫妻（左から）

ファインマンが講演で「未来のコンピュータは原子となり、量子力学の法則を使っていろいろなことができる」と話すのを理解できなかったが、23年後に自分たちが似たデバイスを作り、とても驚いたこと、1986年に世界で初めてナノエレクトロニクスという名前を付けて研究提案をし、新人1名が後に中村博士であったこと、そして、超伝導や量子回路の歴史と自身の研究の関わりを説明して講演を終えました。続いて、ヴァンロッサム氏が講演し、Pythonの歴史と、Pythonの人気の理由でもあるコード記法を説明し、Pythonは数十から数百行の小さなスクリプトを書くための言語だと思っていたが、人々は何千行にも及ぶPythonコードを作成し、AIの世界で非常に人気となったことに驚いたと話しました。そして、Pythonコミュニティが形成される過程と、健全なコミュニティを作る方法について話して、講演を終わりました。

受賞講演の後、受賞者を囲んでのカクテルパーティの場が設けられました。歓談は40分程度の短いものではありませんでしたが多数の方にご参加いただき、和やかな雰囲気の中、参加者が受賞者にお祝いの言葉を述べ、また参加者同士が懇親を深める交歓の場となりました。

式典会場には、中村博士と蔡教授が、超伝導量子ビットを開発したときの装置に使われていた希釈冷凍機が展示され、参加者の関心を引いていました。

晩餐会には、受賞者夫妻とご来賓の方々が参加されました。新野理事長の開会の挨拶に続き、情報処理学会副会長 松原仁様のスピーチと乾杯の発声で、ご歓談しながらのお食事が始まりました。宴の終わりに、受賞者招待者の紹介とご祝辞、受賞者の返礼がありました。午後7時45分、和やかな雰囲気の中、晩餐会はお開きとなりました。

関連URL

C&C賞受賞者の詳細な情報につきましては、以下のNEC C&C財団ホームページをご覧ください

<https://www.candc.or.jp/kensyo/2023/ceremony.html>

■ 公益財団法人NEC C&C財団について ■

NEC C&C財団は、C&C技術分野、すなわち情報処理技術、通信技術、電子デバイス技術及びこれらの融合する技術分野における開拓又は研究に対する奨励及び助成活動を通じて、世界のエレクトロニクス産業の一層の発展を図り、経済社会の進展と社会生活の向上に寄与することを目的としています。1985年3月に設立された財団法人であり、その基金はNECからの寄付金に依っています。

この目的を果たすための活動として、現在、顕彰事業及び研究助成事業を行っています。

顕彰事業としては、C&C分野の開拓・研究、あるいはこの分野の社会科学研究活動に関し顕著な貢献のあった方に対して、C&C賞を贈呈しています。

研究助成事業としては、日本在住の大学院所属の学生で、海外で開催される国際会議で論文発表などをされる方々への会議参加費用の助成とともに、日本国内の大学院博士後期課程に在籍する学生に研究費を助成しています。

NEC 技報のご案内

NEC 技報の論文をご覧くださいありがとうございます。
ご興味がありましたら、関連する他の論文もご一読ください。

NEC技報WEBサイトはこちら

NEC技報（日本語）

NEC Technical Journal（英語）

Vol.75 No.2 ビジネスの常識を変える生成AI特集 ～社会実装に向けた取り組みと、それを支える生成AI技術～

ビジネスの常識を変える生成AI特集によせて
生成AI技術への取り組み ～基盤から応用、ルール作りまで～

◇ 特集論文

急速に広まる生成AIの市場適用

NECにおける生成AIの取り組みについて
電子カルテと医療文書の作成支援による医師業務効率化
映像×LLMによる報告書作成業務の自動化
映像分析と生成AIによるリアル世界の行動理解
サイバー脅威インテリジェンス生成自動化
生成AIの社内活用を進めるNEC Generative AI Service (NGS)
ソフトウェア・システム開発への生成AIの活用
LLMとMIで革新する素材開発プラットフォーム
LLMと画像分析を活用した被災状況の把握

生成AIの可能性を高める基盤技術

日本語性能に優れたNECの大規模言語モデル (LLM)
NECの生成AIを支える国内企業で最大規模のAIスーパーコンピュータ
より安全な大規模言語モデル (LLM) を目指して
データを秘匿したまま連携できる連合学習技術とLLMへの適用可能性
大規模言語モデル (LLM) によるFew-shotクラスタリングの可能性
オープンドメイン常識推論のための知識拡張型プロンプト学習
AI連携とオーケストレーションのための基盤ビジョンLLM
クエリを考慮した新規手法により関連する企業データを減らしLLM APIの使用コストを最適化

AI技術が社会へ浸透するために

AI標準化・ルールメイクに関する動向とNECの取り組み
人権尊重に向けたNECのAIガバナンスの取り組み
RCModelを用いたAIリスクマネジメントのための人材育成事例

◇ NEC Information

2023年度C&C賞表彰式典開催



Vol.75 No.2
(2024年3月)

特集TOP